

6-24 中国・四国地方の地殻変動

Crustal Movements in the Chugoku and Shikoku Districts

国土地理院

Geographical Survey Institute

第1, 2図は、瀬戸内地方の精密測地網一次基準点測量結果である。第1図は、南海震災改測結果との比較による水平歪である。東北部を除いて、南北から北西-南東方向の圧縮歪が卓越している。東北部は、東西方向の圧縮歪の場となっている。第2図は、明治の三角測量成果との比較である。西部で、北西-南東方向の伸びが見られるが、南海道地震の影響とも考えられる。

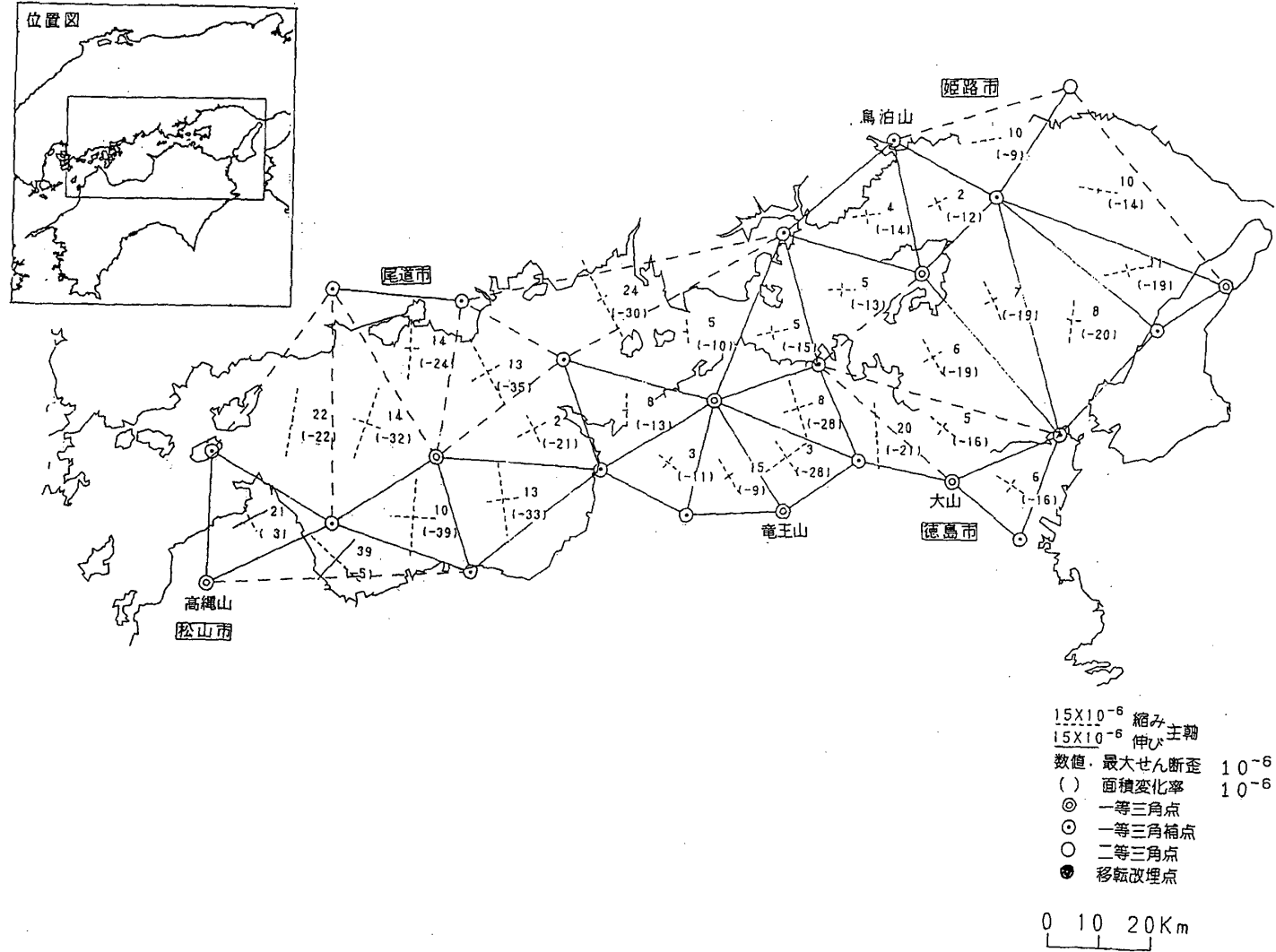
第3図は、宿毛から土佐清水を経由して中村に至る路線沿いの上下変動である。1972年以降、足摺岬に向かって沈降する傾動が見られる。沈降量は、足摺岬に最も近い水準点10931で最大で、1985年から1992年まで約4 cmである。

第4図は、山陰地方の験潮場間の月平均潮位差である。特に、大きな変化はみられない。第5図は、瀬戸内海西部の験潮場間の月平均潮位差である。松山が徳山、呉に対して隆起していることが認められる。第6図は、四国地方の験潮場間の月平均潮位差である。土佐清水と室戸岬が沈降している。特に、土佐清水は1991年後半から、沈降が始まったように見える。水準測量結果とあわせて、次の南海道地震に向けた歪の蓄積が始まっていると考えられる。

参 考 文 献

- 1) 国土地理院：四国地方の地殻変動，46 (1991)，394-401.
- 2) 国土地理院：中国・四国地方の地殻変動，47 (1992)，421-427.
- 3) 国土地理院：中国地方の地殻変動，連絡会報，48 (1992)，423-428.
- 4) 国土地理院：四国地方の地殻変動，連絡会報，48 (1992)，429-435.
- 5) 国土地理院：中国・四国地方の地殻変動，連絡会報，49 (1993)，521-525.

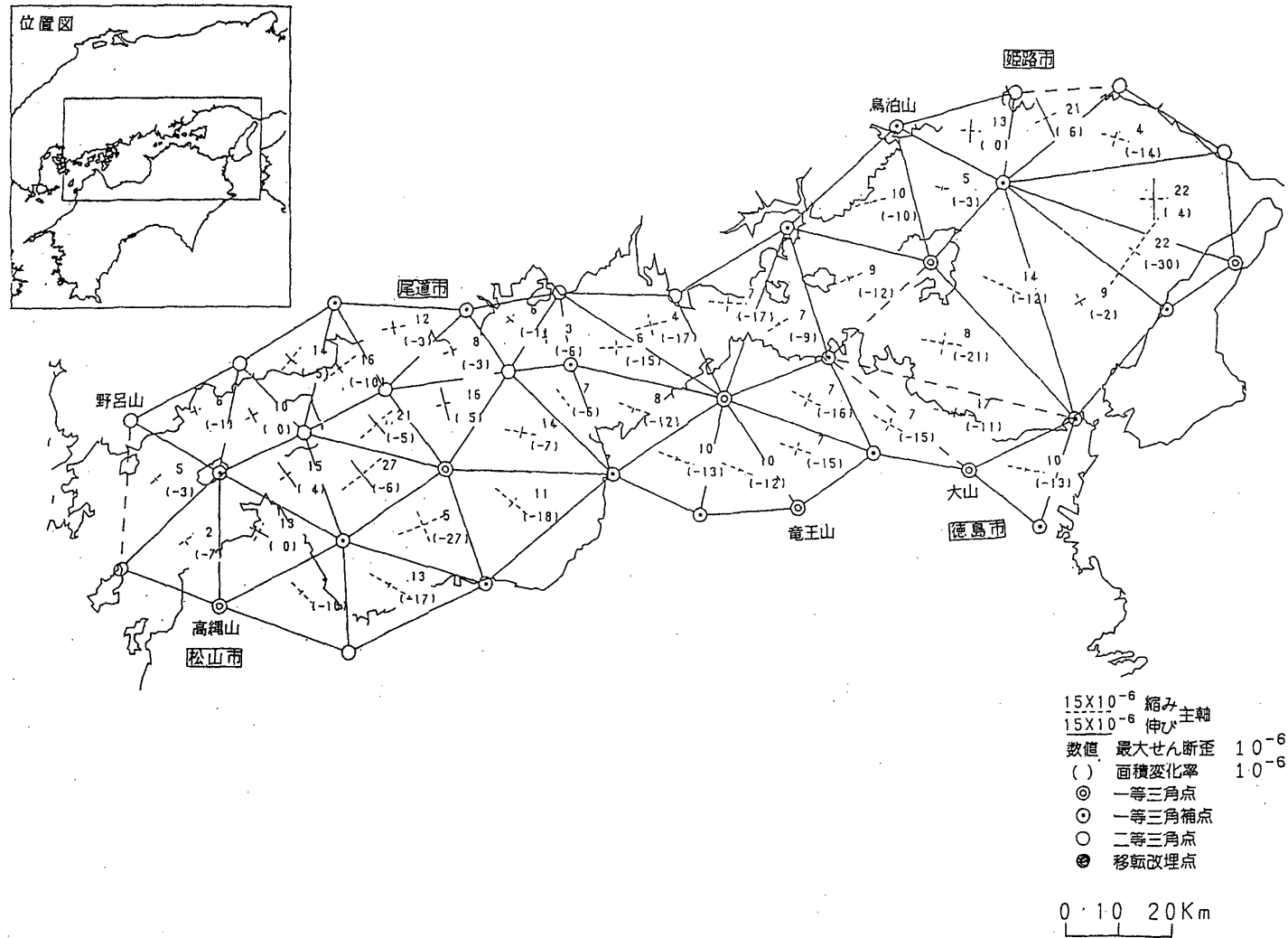
1次網2回目(1990-92)-南海震災(1949-52)



第1図 瀬戸内地方の水平歪(1) : 1990~'92-1949~'52

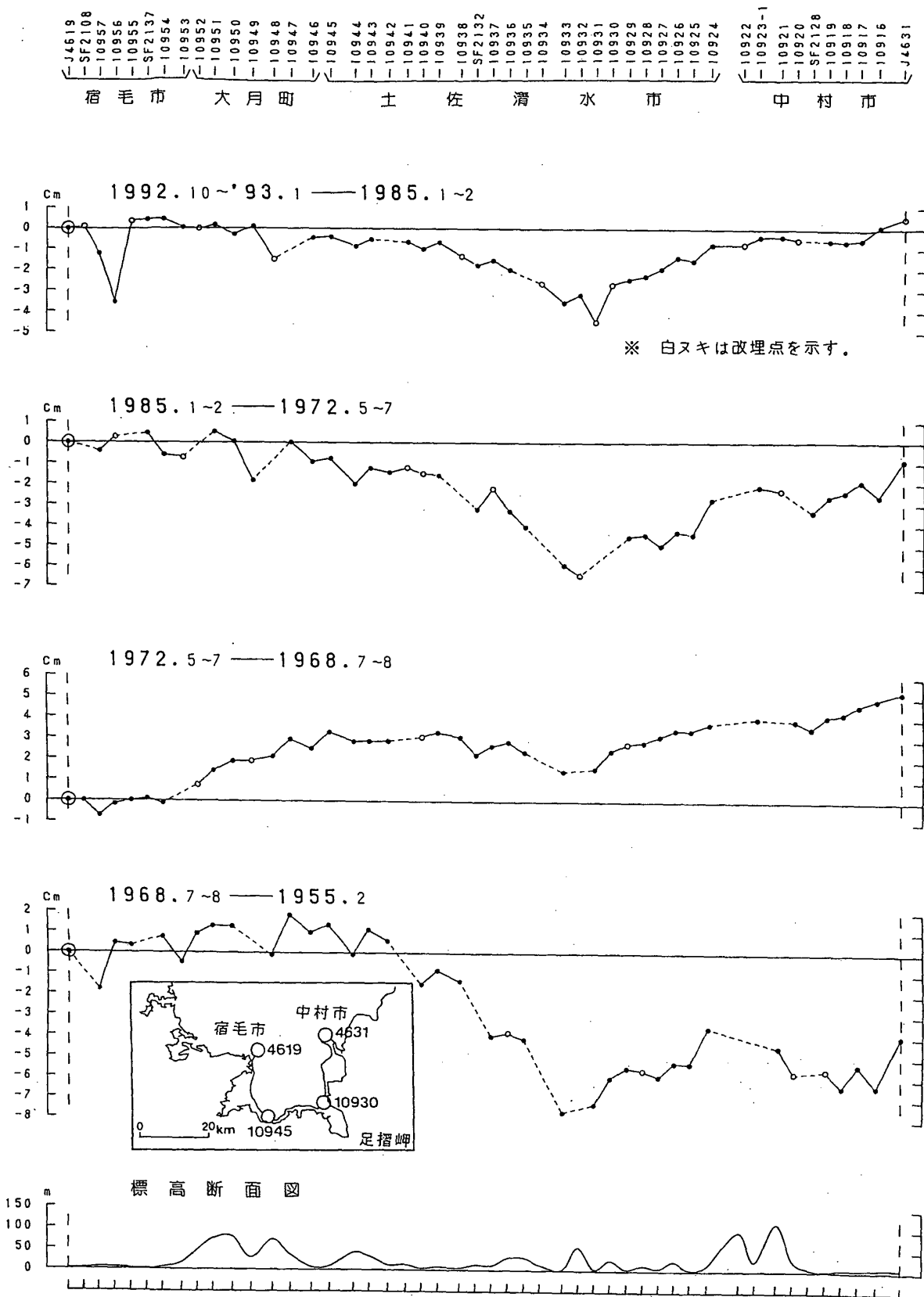
Fig.1 Horizontal strains in the Setouchi district. 1990~'92-1949~'52.

1次網2回目(1990-92)-明治(1887-97)



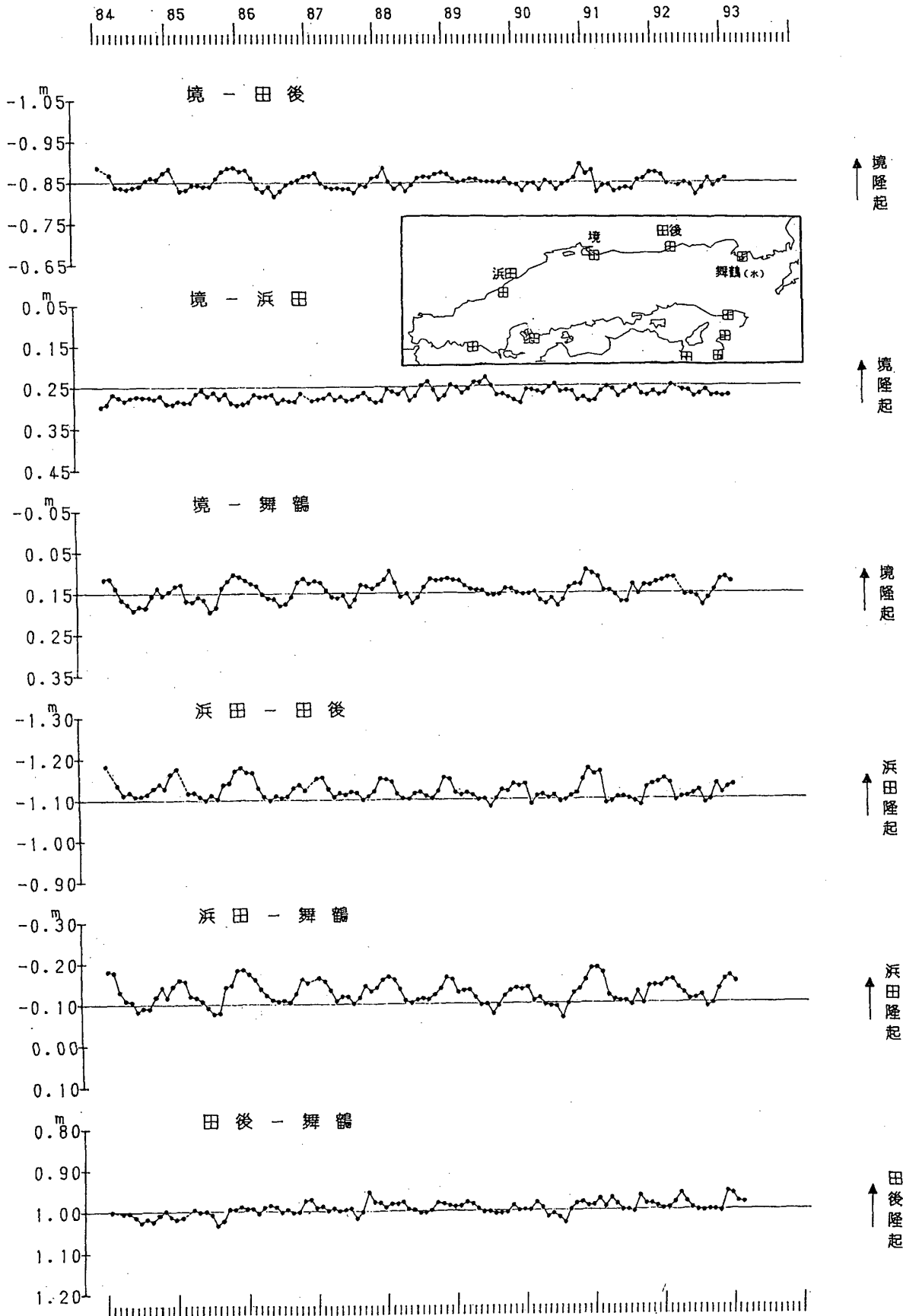
第2図 瀬戸内地方の水平歪(1): 1990~'92-1887~'97

Fig.2 Horizontal strains in the Setouchi district. 1990~'92-1887~'97.



第3図 宿毛～土佐清水～中村間の上下変動

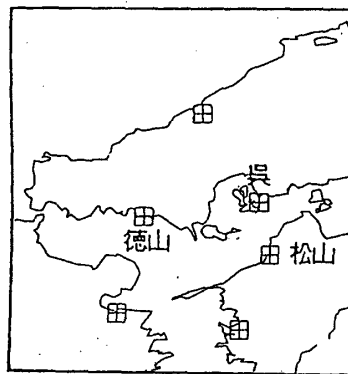
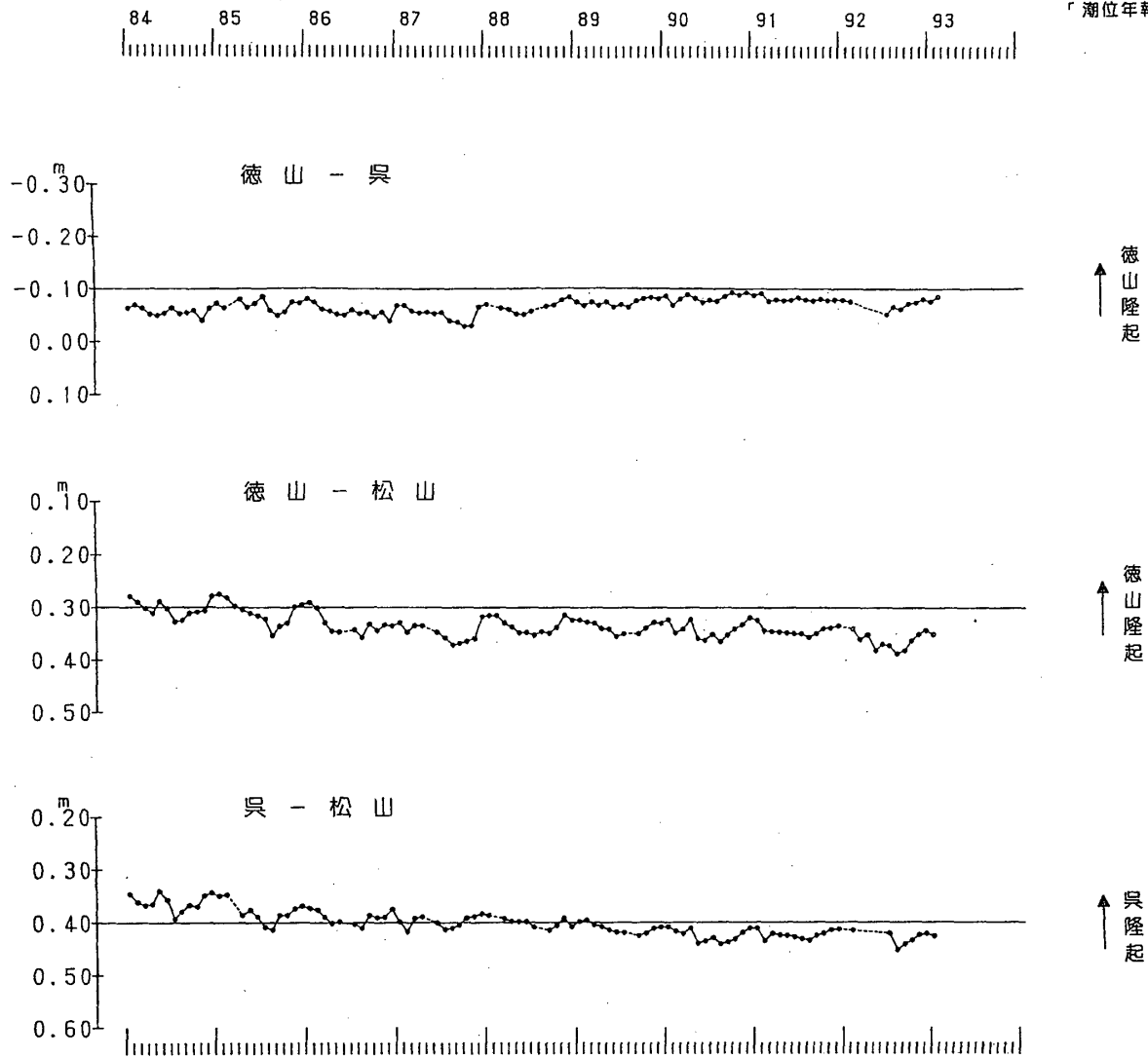
Fig.3 Level changes along the route between Sukumo and Nakamura via Tosa-Shimizu.



第4図 山陰地方の験潮場間の月平均潮位差

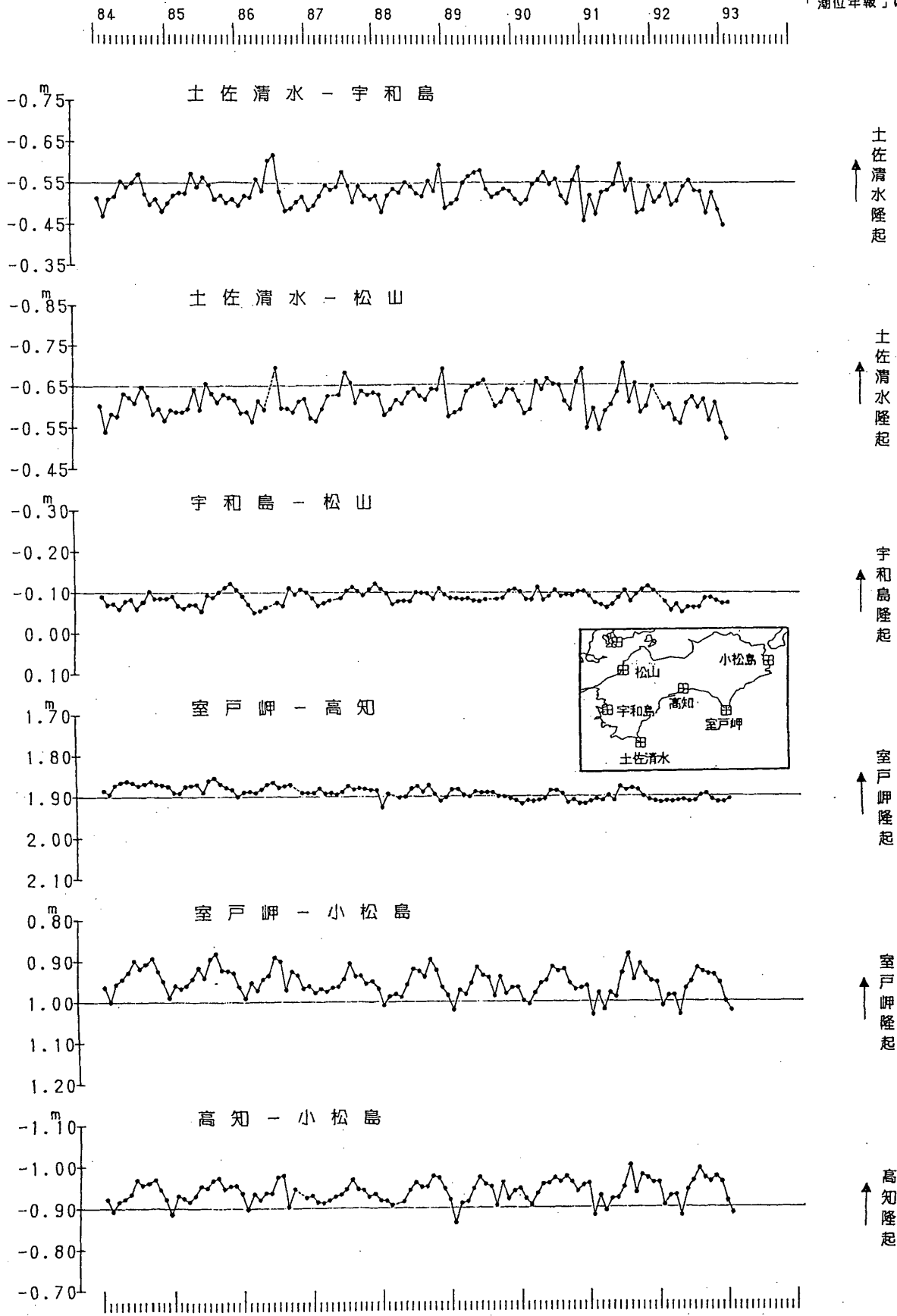
Fig.4 Differences in the monthly mean sea levels between the pairs of tide stations San'in district.

海岸昇降検知センター
「潮位年報」による。



第5図 瀬戸内海西部地方の験潮場間の月平均潮位差

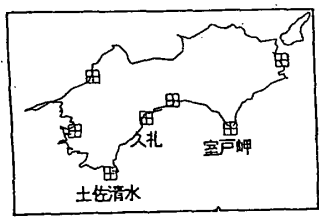
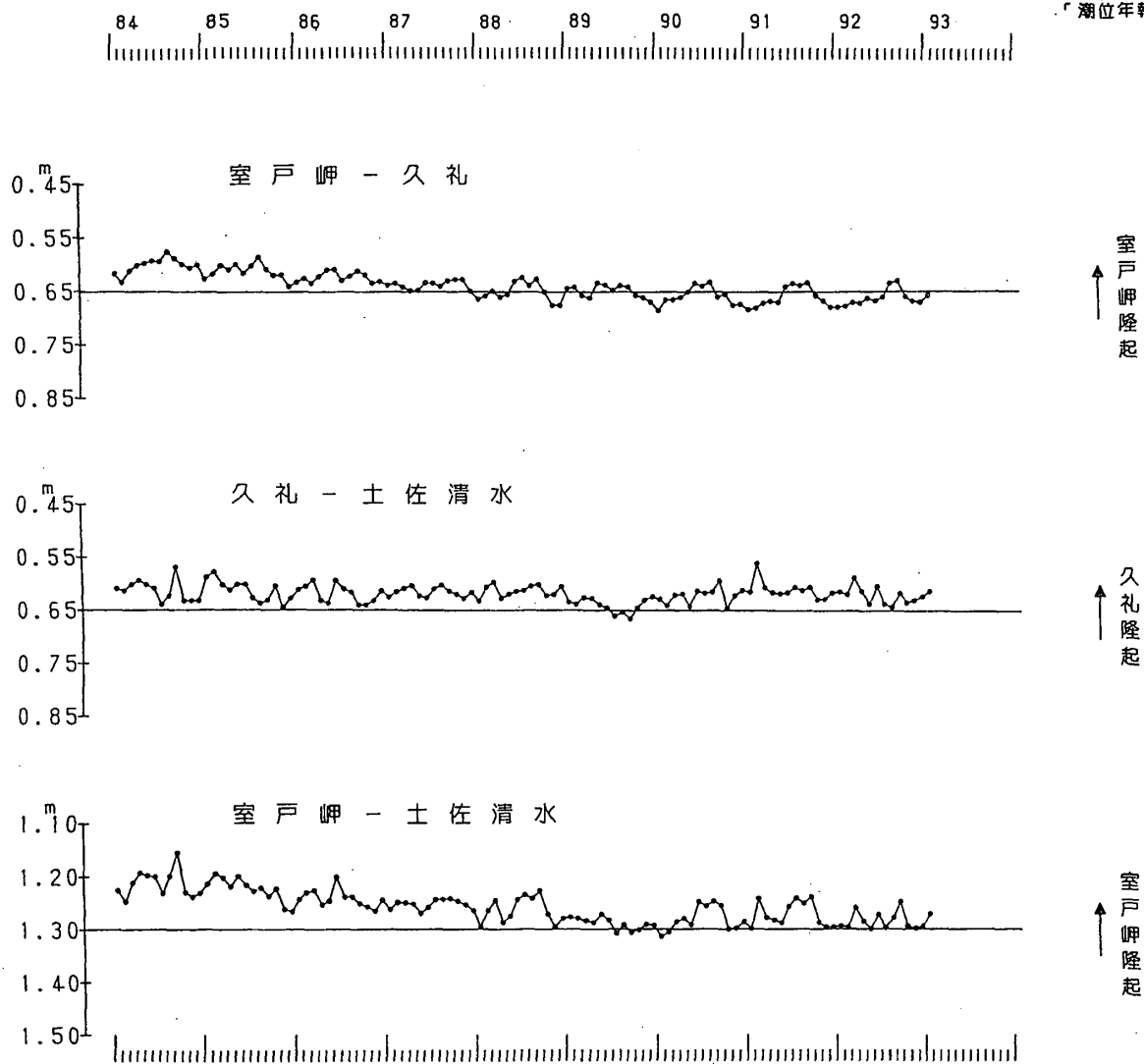
Fig.5 Differences in the monthly mean sea levels between the pairs of tide stations in the western Seto Inland Sea.



第6図 四国地方の験潮場間の月平均潮位差

Fig.6 Differences in the monthly mean sea levels between the pairs of tide stations in the Shikoku district.

海岸昇降検知センター
「潮位年報」による。



第6図 つづき
Fig.6 (continued)